

京林大だより

No.23



絵:卒業生 熊走君



本年もどうぞよろしく お願いいたします

明るい話題がたくさんあった2015年を ふり返ってみました

★ 林大2期生、林業界にデビュー！（4月）
第2期生23名が3月に卒業して、活躍を始めました

★ フレッシュな若者が入学（4月）
4月から第4期生22名が和知で勉強を始めました

★ 2年生、事業体研修頑張る（9月～11月）
第3期生19名が長丁場の実践研修に汗をかきました

★ 林大名物、日本海ウォーク全員制覇（4月）
和知から舞鶴まで山道を通り2日かけ約50kmを歩き通しました

★ 2年生、ドイツ研修（5月）
ヨーロッパの森林・林業から多いに刺激をもらいました

★ 猛暑の夏、オープンキャンパス開催（8月）
大型の林業機械の実演に興味津々の来校者でした

★ 地域の皆さま、学生がたいへんお世話になりました
和知ふるさとまつり、秋まつり（みこし担ぎ）、バレーボール

★ 全国の林大と交流深まる（11月）
→ 裏面に特集

★ 林野庁長官（6月）と農林水産省顧問（11月）が学生を激励
最新の林業事情を学生たちが熱心に学習しました

★ テレビ、ラジオ番組が林大を取材（9月～11月）
学生たちのひたむきさを報道してもらいました



岐阜、長野の林大と 協定を締結

国内には、林業を専門に教える大学校が3校あります。岐阜県と長野県と京都府です。3林大の校長が、互いの交流を通じて、技術者養成教育を一層充実していこうと堅く手を結びました。



11月14日、岐阜県立森林文化アカデミーにて



校長室より

『森林税』府県も国も

新年1月4日、京都府庁の「仕事始め」、山田啓二京都府知事の年頭挨拶を拝聴してきました。

昨年の正月、この新年ご挨拶で知事は、未(ヒツジ)が来ると書いて「未来」、そのためには「地方創生」、京都ならやれると力説され、私はそれに「それをリードするのは森林・林業、なぜなら元日は『木』曜日」と答えたのを覚えています。

今年の知事の年頭挨拶も「地方創生」重視、今年は申(さる)年、「申す」だけでなく、それに人が付けば「伸」びると。ところで今年の元日は金曜日、「金がリード」は勘弁して欲しいが、「地方創生が伸びるにはまず資金」と、思いたいものです。

地方創生、てこ入れの一つとして、政府は「森林税」を検討中とのこと。国税として広く国民から集め、森林整備事業

今月の授業参観

『枝打ち実習』



美しい木目の柱や板は、木造住宅の良さを一層引き立ててくれるものです。そこで節のない材が得られるように、植林した木の成長途中で枝を切り落とします。その際、きちんと成長できるように葉っぱを残して、幹に傷をつけないよう人の手でいねいに枝を切り落とします。



11月10日、北山スギの本場で現地実習

校長 只木良也

用に供するものですが、府県レベルでは、平成15年の高知県を筆頭に、すでに35県で制度化され、京都府でも「豊かな森を育てる府民税」の名で、28年度から制度導入の予定です。

手入れ不足が指摘される森林管理の費用捻出の「森林税」、基本的には異論ありませんが、国民の理解不足で誤解を生むのは避けたいものです。

制度が始まった頃の森林県で、「森林が有るから税金?」「森林無ければ無税なのに」の声は根強く、国税ともなれば、また反対論も多いでしょう。森林豊かなわが国だけに、森林を「木の生えている未利用地」と見、それを「開発」してこそ国の発展と見る人は、まだまだ多いからです。

国民の十分な理解・認識の上の制度であって欲しいものです。

